

環境特集



Teamを展開する大山さん

環境と経済の好循環を生み出すために、多彩な人々をエコアイデアでつなげたい。The eco-alliance museum(エコ・アラリアンス ミュージアム)は、産業廃棄物の再資源化を行う大分エコセンター(大分市・大山直美社長)が取り組む次世代型環境ビジネス。産業創造機構の第11回ビジネスグランプリを受賞した。事業を立ち上げた大山社長は「廃棄物が増えれば収益は上がる。けれど、この大量消費型のバランスを続けられれば次世代が立ち行かなくなる。私たちが別の収益を得る方法を新たに展開できればと考えた」と話す。

そこで目を付けたのが、廃材をクリエイティブなデザインでよみがえらせるアップサイクル。廃棄物を地域資源である「廃財」ととらえ価値を見出す考え方を普及させ、一方で消費者が「欲しい」と思えるものをクリエイターと共に作りTeamブランドで提供する。「再資源化する前に廃材が流通すれば、環境負荷はより軽くなる。おしゃれなデザインでアップサイクルへの価値を感じてもらえるようなものづくりをしたい」

Team事業の柱は、アップサイクルの実働モデルを産学官協働でつくる「エコ・ラボ」、商品やブランドイメージを伝える場である



昨年開かれたワークショップ「海辺のエコ・ファブラボ」

「ミュージアム」、クリエイターとつながりビジネスモデルを構築する「グリーンビジネス」の二つ。昨年からワークショップなどのイベントも開いており、本社がある総合リサイクルセンターにTeamスペースを開設し見学を受け入れるなど、年代や職種の垣根を越えたつながりが広がっている。次の目標は優れた商品開発による「Teamブランド」の構築。古いけれどおしゃれ。何より心地いい暮らし方へ。さまざまな人がエコを考え、つながるチームが動き出している。Teamニュースレター(毎月1回)の問い合わせはteam2014@eco-center.co.jp。

# 注目、グリーンビジネス

環境の保全・修復につながるグリーンビジネスに取り組む会社がある。県内でも増えている。環境に配慮した経済が生まれることは、持続可能な社会への大きな推進力。私たち市民も消費行動に「環境視点」という新たな価値観を持つことが、グリーンビジネスの後押しになる。県内でグリーンビジネスを展開する2社を紹介するとともに、実際に県内で開発されたエコシステムを利用する消費者に話を聞いた。

## 廃財をアップサイクル

## ネコヤナギで護岸緑化



開発者の松本さん

水際に生えたネコヤナギが水流を和らげ、水面に影を映す。水中ではネコヤナギから伸びた根をすみかとして生き物たちの世界が広がる。従来のコンクリート護岸ではできなかった護岸緑化の技術を、松本技術コンサルタント(中津市・松本邦男社長)が開発した。

ネコヤナギ。エコ工法は、コンクリートをくり抜いて護岸の水路にネコヤナギを植え、環境に優しい水辺を取り戻す工法。松本社長は「経済優先の工事は、結果として生き物が住みにくい河川環境を造ってきた。今後を見据えた新しい公共事業を模索する中で、環境に優しいものができないかと考えた」と振り返る。実際に川を見て回り、コンクリートの継ぎ目に自生するネコヤナギに注目。生物が住みやすい環境には水際の環境保全が大切という



ネコヤナギで緑化された護岸

九州大学の調査によると、ネコヤナギを植えた護岸には魚の種類、個体数がコンクリート護岸に比べ多く生息。水中根が生き物を涵養させることが裏付けられた。施工した河川ではホタルが戻ってきた例もあり、各地の自治体が期待を寄せている。松本社長は「失った環境を取り戻すには息の長い活動が必要。生物を中心とした工事の在り方を根気強く進めていきたい。建設工事に環境という価値観を根付かせたい」と話していた。

## エコエネ車で営業回り

由布市湯布院町で「ランドリーハウス」ありあを経営する溝口智恵美さんは、中津市のT・プランが開発した自然エネルギー蓄電システム「青空コンセント」を利用した超小型電動モビリティで地域の高齢者宅を回り、洗濯物の集配を行っている。環境目線の暮らし方について溝口さんは「子どもに残したくないものは買いたくない」と話す。

「エコは地道な取り組み。今は技術も進んでいますし、選び方や使い方の工夫で快適な暮らしができます。青空コンセントはエネルギーの家庭菜園みたいなイメージ。大事に使っています。電動モビリティは1回の充電で約50分走るから困ることはありませんし、何より環境と人に優しいんです。」



電動モビリティで地域を回る溝口さん

「一昨年の大雨災害の際にも蓄電池が活躍したという。湯布院で自然の恵みを受けて生活していることを皆さんに見てもらいたい」とほほ笑む。T・プランの佐藤篤司さんは「身近な環境技術として青空コンセントを広げていきたい」と話していた。